

# 安武校区の 文化財マップ。



久留米市

# ★ はじめに

やすたけこうく ちくごがわ ありあけかい む おお みなみ だこう ぶぶん いち こだい  
 安武校区は、筑後川が有明海に向けて大きく南に蛇行する部分に位置し、古代から  
 いくど こうずい ひが い う どうじ ち ゆた どじょう すいじょうこうつう  
 幾度となく洪水の被害を受けましたが、同時に、この地に豊かな土壌と水上交通の  
 かなめ やくわり しやうわ ねん ほんかくてき はじ ほじょうせいびじきょう  
 要としての役割をもたりました。昭和61年より本格的に始まった圃場整備事業に  
 ともな まいぞうぶんかざい はくつちやうさ かずおお いせき はつけん なか じようもん  
 伴う埋蔵文化財の発掘調査では、数多くの遺跡が発見されました。中でも、縄文  
 じだい か お あな おお み しやうやのいせき やよいじだい おお  
 時代の狩りのための落とし穴が多く見つかった庄屋野遺跡、弥生時代の大きな  
 しゅうらく つかばたけいせきん なら へいあんじだい たてものぐん み のせづかいせき おお  
 集落であった塚畑遺跡群、奈良〜平安時代の建物群が見つかった野瀬塚遺跡、多く  
 ぼくしょどき しゅつど ねんぶつづかいせき はつけん やすたけいつたい こだい ようす し  
 の墨書土器が出土した念仏塚遺跡などの発見は、安武一帯の古代の様子を知  
 る重要な手がかりとなりました。鎌倉時代になると、「安武村」の地名が古文書に登  
 じゅうよう て かまくらじだい やすたけむら ちめい こもんじょ どう  
 場するようになり、戦国時代にはこの土地で勢力を張っていた安武氏の居城で  
 じょう せんごくじだい とち せいりよく は やすたけし きじょう  
 ある「海津城」などの名前も見られます。江戸時代には、久留米城と柳河城とを  
 かいづじょう なまえ み えどじだい くるめじょう やながわじまう  
 むす やながわおうかん げんざい けんどうく め やながわせん せいび めやすまち いちりづか  
 結ぶ柳河往還（現在の県道久留米・柳川線）が整備されました。目安町の一里塚  
 しいない ゆいいつのこ いちりづか  
 は、市内で唯一残る一里塚です。

# ★ 礎遺跡

いかりいせき やよいじだい きんせい なが あいだ ひとびと せいかつ こんせき はつけん  
 礎遺跡では、弥生時代から近世まで長い間に人々が生活していた痕跡が発見され  
 しゅうへん もつと ぶる やよいじだい ちやうじやう あな だいぜんじまち おんつかこふん ちやうし  
 ました。この周辺で最も古い弥生時代の貯蔵用の穴や、大善寺町の御塚古墳・銚子  
 づかこふん こんげんづかこふん おな じき  
 塚古墳・権現塚古墳と同じ時期の  
 たてあなじゅうきよ み  
 竪穴住居が見つかっています。

ちゅうせい いど たてもの みぞ どうこう  
 また、中世の井戸や建物、溝、土壇  
 ぼ きんせい いど み  
 墓や、近世の井戸も見つかってい  
 しゅうらく きゅうちくごがわ さがん  
 ます。この集落は旧筑後川の左岸  
 ひろ すいじょうこうつう りくじょう  
 に広がっており、水上交通や陸上  
 こうつう めん ひじょう りっち よ  
 交通の面から非常に立地が良く、  
 ひとびと なが せいかつ  
 人々が長く生活していたことがわ  
 かります。



いかりいせき はくつちやうさ  
 ▲ 礎遺跡の発掘調査

# ★ かいづじょうあと 海津城跡

いばらあわのかみしげまさ かわちのくに げんざい おおさかふ ひと えいしやう ねん かいづじょう  
 茨阿波守重政は河内国(現在の大阪府)からきた人で、永正5年(1508)に海津城を  
 ちくじょう かいづじょう ほんまる に まる さん まる いばらあわのかみしげまさ  
 築城しました。海津城には、本丸、二の丸、三の丸があったとされています。茨阿波守重政は  
 ぶんご おおともし かしん おおともよしあき いとこ むすめ つま やすたけあわのかみあきまさ な  
 豊後大友氏の家臣となり、大友義鑑の従弟の娘を妻にし、安武阿波守鑑政と名を  
 あらためました。さんだいじょうしゅ やすたけやすえもんまさかつ えいろく ねん おおともぜい  
 三代城主の安武安右衛門政勝は永禄7年(1564)の大友勢に  
 しもだじょうこうりやく えいろく ねん りゅうぞうじこうげき さんか  
 よる下田城攻略、永禄12年(1569)の龍造寺攻撃にも参加しました。しかしながら、  
 てんしやう ねん りゅうぞうじ かしんよこたけよりつぐ やすたけやすえもんまさかつ おじ  
 天正4年(1576)、龍造寺家臣横竹頼次に攻められ、安武安右衛門政勝は叔父の  
 なかうまのすけ とも たたか せ お よこたけ かいづじょう  
 仲右馬助と共に戦いますが、攻め落とされてしてしまいます。横竹は海津城に入り、  
 ねんかんきよじゅう ご たちばなさんざえもん きよじゅう けいちやうねんかん  
 10年間居住していました。その後、立花三左衛門の居城となったのちに、慶長年間

(1596~1615)に廃城しました。  
 ほじょうせいび ともな はつくつちやうさ  
 圃場整備に伴う発掘調査では、  
 かいづじょう たてもの いど どき ふる  
 海津城の建物や井戸、土器や古い  
 ぜに み  
 銭がたくさん見つかりました。



かいづじょう み いづつ  
 ◀ 海津城から見つかった遺物



すみよしばんしよあと  
★ 住吉番所跡

すみよし むかし ちくごがわ めん  
住吉は昔の筑後川に面しており、  
ちくごがわかこう えのぎづ じょうかぐち せのした  
筑後川河口の榎津、城下口の瀬下と  
なら ちくごがわさんこう はん ふね  
並ぶ筑後川三港でした。藩の舟が  
ていはく かくち しょうせん  
停泊したほか、各地の商船があつ  
く すいじょうこうつう ようこう  
まって来る、水上交通の要港でした。  
かわぞ はん とおみ  
そのために、川沿いに藩の遠見  
ふね でいり み は ばんしよ  
(舟の出入を見張るための番所)や

こくどめばんしよ こくもつ いどう かんし ばしよ せんぱく ひとびと い き けいび  
穀留番所(穀物などの移動を監視した場所)をおいて、船舶や人々の行き来を警備  
たいしやうじだい おお ふね い か  
していました。大正時代くらいまでは大きな船が行き交っていました。

すみよしばんしよあと  
▼ 住吉番所跡



めやすまち いちりづか  
★ 目安町の一里塚

いちりづか おお どうろ そば つか うえ き う たびびと りよてい  
一里塚は大きな道路の側にある塚の上に木が植えられ、旅人にとっては旅程の  
めやす きゆうけい ばしよ きちよう いちりづか ふめい  
目安や休憩の場所となる貴重なものでした。一里塚がいつつくられたのか不明ですが、  
ねんまえ えが くる めはんりようず くる め やながわ むす やながわおうかん  
およそ300年前に描かれた「久留米藩領図」には久留米と柳川を結ぶ柳河往還の  
とちゆう えが いぜん おも くる め ふだのつじ  
途中に描かれていることから、それ以前にはあったと思われます。久留米の札ノ辻  
げんざい とおちゆう しやくしよひがしこうさてんふきん り げんざい やく ばしよ  
(現在の通町、市役所東交差点付近)からちようど1里(現在の約4km)の場所にあ  
るとじ つか した ちゃや  
ります。当時は塚の下に茶屋があつ

ふる えのき う  
たそうです。古くは榎が植えられた  
つか ひがしがわ まつ う  
塚とともに東側にも松が植えられ  
つか どうろ かくふく  
た塚がありましたが、道路の拡幅  
げんざい いしがき のこ  
により現在は石垣のみが残ってい  
ざんねん おお えのき へいせい  
ます。残念ながら、大きな榎は平成  
ねん ふきゆう みき お  
30年に腐朽のため、幹が折れてし  
まいました。



めやすまち いちりづか  
▲ 目安町の一里塚

## ★ 野瀬塚遺跡

のせづかいせき じょうもんじだい なら へいあんじだい やく ねんまえ いせき はつくつ  
 野瀬塚遺跡は、縄文時代と奈良～平安時代(約1,200年前)の遺跡です。発掘  
 ちょうさ じょうもんじだい か よう お あな やく きみ なら へい  
 調査では、縄文時代の狩り用の落とし穴が約20基見つかりました。奈良～平  
 あんじだい たてもん いど す あな みぞ  
 安時代の建物や井戸、ごみ捨て穴、溝など  
 はっけん はじき すえき  
 も発見されました。土師器や須恵器という  
 うつわ とうきき りょう どすい  
 器、陶器、漁をするためのおもり(土錘)、  
 てつぞく かじ どうぐ ふいご はぐち  
 鉄鋸、鍛冶をするための道具(鞆の羽口)  
 いぶつ しゅつど はじき すえ  
 などの遺物が出土しました。土師器や須恵  
 き たぬし もじ きざ  
 器には、「田主」という文字が刻まれたり、  
 みづまたいりょう やくにん くらい あらわ もじ  
 「三万大領」などの役人の位を表す文字が  
 か  
 書かれたりしています。



のせづかいせき はつくつちょうさ  
 ▲野瀬塚遺跡の発掘調査

## ★ 八幡神社拝殿(伝 明静院本堂)

はちまんじんじゃ はいでん でん みょうじょういんほんでん  
 八幡神社は、もともと安武町西北部の筑後川の近くにありましたが、水害にあうことが  
 おお てんもん ねん やすたけあわのかみあきのり しゃでん げんざい ばしょ た なお  
 多く、天文16年(1547)に安武安房守鑑教が社殿を現在の場所に建て直しました。  
 ご たいしょう ねん やすたけちようない じんじゃ てんまんぐう はちまんじんじゃ あ  
 その後、大正4年(1915)には安武町内にあった神社や天満宮を八幡神社に合わせた  
 はちまんじんじゃ てんまんぐう か とりい き こまいぬ も よ  
 ため、八幡神社には天満宮と書かれた鳥居が2基といくつかの狛犬が持ち寄られて  
 います。また、拝殿は明治初期に  
 はいぶつぎしやく こうらさん みょうじょう  
 廃仏毀釈となった高良山の明静  
 いん ほんでん めいじ ねん  
 院の本堂を明治3年(1870)に  
 とうち いちく  
 当地に移築したといわれてい  
 われています。内部の天井には、  
 ないぶ てんじょう  
 くるめ はん ごようえし みたにしゅごう  
 久留米藩の御用絵師三谷主郷  
 ちゅうしん えが まい  
 が中心となって描いた154枚  
 すみえ さいしよくが のご きちよう  
 の墨絵や彩色画が残っており、貴重  
 なものです。



はちまんじんじゃはいでん  
 ▲八幡神社拝殿

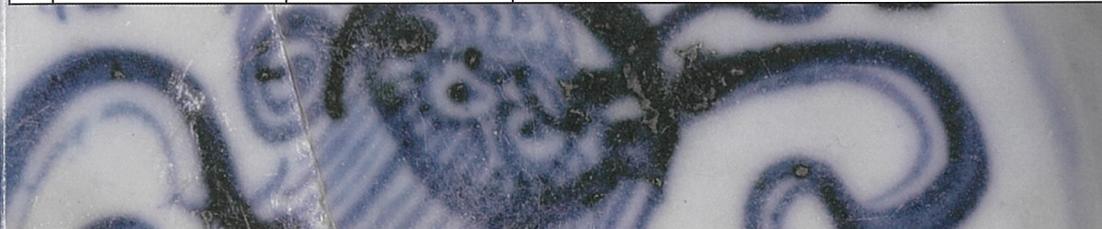
やすたけ こうく ぶんかざい  
★ 安武校区の文化財

	遺跡の名前	遺跡の時代	こんな遺跡です
1	やまうらかわぞていせき 山浦川底遺跡	弥生～室町	川底の砂を採るときに、土器が出土しています。
2	かいづじょうあと 海津城跡	室町	安武安房守の居城で、中国産の陶磁器をはじめとする食器などが出土しています。また、海津城の名は安武小学校の校歌にも登場します。
3	いかりいせき 碇遺跡	弥生～江戸	旧筑後川に沿った集落から、様々な時代の井戸や溝、お墓が見つかっています。
4	かきぞえいせき 垣添遺跡	不明	時代は分かりませんが、勾玉が見つかっています。
5	すみよしばんしょあと 住吉番所跡	江戸	かつて港町であった住吉に置かれた、船人の往来を取り締まるための番所跡です。
6	ふうりんさんこふん ふうりん山古墳	古墳	円墳で、鉄製の鎧や刀などが出土したと伝えられています。現在は残っていません。
7	うらがしらこふん 浦頭古墳	古墳	円墳で、金の玉が出土したと言われています。現在は残っていません。
8	つかこふん ころび塚古墳	古墳	金の耳飾りが出土した円墳でしたが、現在は残っていません。
9	きょうつかこふん 経塚古墳	古墳	円墳でしたが、現在は残っていません。
10	しおいらいせき 汐入遺跡	弥生・奈良・中世	弥生時代の甕棺墓や竪穴住居、奈良時代の建物跡が見つかっています。
11	やしきいせき 屋敷遺跡	弥生	貝塚があったのではないかと考えられています。
12	じょうぎきいせき 城崎遺跡	弥生・古墳・室町	弥生・古墳時代の土器や、室町時代の建物跡が10軒以上見つかっています。
13	にしがらすいせき 西烏遺跡	古墳・室町～江戸	古墳時代の井戸や室町時代の屋敷跡に加え、江戸時代のお墓が500基以上見つかっています。
14	ひがしがらすいせき 東烏遺跡	弥生	竪穴住居・高床建物・井戸などが見つかかり、弥生土器や石器がたくさん出てきました。
15	つかばたけいせきぐん 塚畑遺跡群	弥生	400軒以上の竪穴住居や高床建物、溝などが見つかかり、たくさんの弥生土器や石器が出土しました。久留米の弥生時代を代表する大きなムラです。
16	しょうやのいせき 庄屋野遺跡	縄文～弥生・奈良	縄文時代の落とし穴、弥生時代の環濠、奈良時代の大きな屋敷跡が見つかっています。
17	やながわおうかん 柳河往還	江戸	1603年、田中吉政により、久留米城と柳川城を結ぶための道が整備されました。
18	ねんぶつづかいせき 念仏塚遺跡	奈良～平安	井戸や鍛冶工房の跡が見つかっている他、墨書土器（墨で文字が書かれた土器）も出土しています。

19	おうかんにしこふん 往還西古墳	古墳	現在は納骨堂があり、古墳の高まりが残っています。
20	さかもとごうふん 坂本1号墳	古墳	昭和62年度の発掘調査で周溝（古墳の周りに掘られた溝）が見つかりましたが、現在は残っていません。
21	さかもとごうふん 坂本2号墳	古墳	円墳でしたが、現在は残っていません。
22	いまいずみいせき 今泉遺跡	縄文・弥生 奈良～室町	弥生時代のムラは10軒以上の竪穴住居が集まっています。この他にも奈良時代や室町時代の有力者の屋敷跡、縄文時代の落とし穴などが見つかっています。
23	いまいずみこふん 今泉古墳	古墳	円墳でしたが、現在は残っていません。
24	たていしこふん 立石古墳	古墳	円墳でしたが、現在は残っていません。
25	おいわけこふん 追分古墳	古墳	円墳で、石室の中からはガラス製の小玉や鉄刀、人骨などが出土しました。現在は残っていません。
26	あんせいみち 安政の道しるべ	江戸	安政4年（1857）、柳河往還と府中道との分岐点に立てられた道しるべです。
27	ふちゅうみち 府中道	江戸	柳河往還から北東へ分かれて府中宿（現在の御井町）まで行く道です。西は住吉まで通じています。

していぶんかざい  
★ 指定文化財

	指定文化財の名前	指定の区分	こんな文化財です（すべて久留米市の指定）
28	めやすまちいちりつか 目安町の一里塚	史跡天然記念物	元禄年間（1688-1704）以前に、柳河往還沿いに設けられた一里塚で、市内では唯一残っているものです。
29	のせづかいせき 野瀬塚遺跡	史跡	奈良～平安時代の工房跡と考えられる遺跡で、40棟以上の建物跡が見つかりました。
30	はちまんじんじやはいでん 八幡神社拜殿	有形文化財（建造物）	高良山にあった明静院の本堂を移築して再建したものと伝えられています。
31	ふるまちいちえびすぞう 古町の市恵比寿像	有形民俗文化財	江戸時代以前から古町で市が開かれていたことを物語る、夫婦一対の木像です。
32	ひぜんじまさかいし 肥前嶋境石	有形民俗文化財	肥前国（今の佐賀県）と筑後国との境界を明らかにするために立てられた境石です。



やすたけこうく れきしねんびょう  
★ 安武校区の歴史年表

時代	西暦	安武地区のできごと	日本のできごと
旧石器	20,000年前	人々の生活が始まる（穴口・庄屋野遺跡）	狩り・漁労・採集などで生活する
縄文	10,000年前		土器や弓矢を使い始める 日本列島がほぼできあがる
弥生	紀元前 400年ごろ	落とし穴で動物を狩る（庄屋野・今泉遺跡など） 集落がつくられる（碓・東鳥遺跡など）  甕棺墓地がつくられる（汐入遺跡など）	落とし穴での狩りが盛ん 稲作が伝わる
古墳	紀元後 300年ごろ 500年ごろ	大きな集落が栄える（塚畑遺跡群）	卑弥呼が邪馬台国を治める 古墳が造られ始める
飛鳥	600年ごろ	集落が営まれる（西島古墳など） 古墳が造られる（追分古墳など）	磐井の乱（527年） 仏教伝来（538年）
奈良	700年	工房と考えられる大型建物群（野瀬塚遺跡）や 有力者の居宅（今泉遺跡）が栄える	大化の改新（645年） 白村江の戦い（663年） 筑紫大地震（679年）
平安 鎌倉	800年  1200年	鍛冶工房がつくられる（念仏塚遺跡）	平城京遷都（710年） 筑後国府・国分寺がつくられる 平安京遷都（794年）
室町	1400年		鎌倉幕府の成立（1190年ごろ） 室町幕府の成立（1336年）
安土桃山 江戸	1500年 1600年	有力者の屋敷がつくられる（城崎遺跡など） 安武氏居城の海津城と城下町が栄える 柳河往還・府中道が整備される 目安町の一里塚がつくられる	応仁の乱（1467年）  江戸幕府の成立（1603年）
	1900年		明治維新（1868年）

文化財に関するお問い合わせは

久留米市市民文化部文化財保護課まで

電話番号:0942-30-9225

FAX:0942-30-9714



安武校区の文化財マップ

平成31年3月31日

発行:久留米市

編集:市民文化部文化財保護課

印刷:中村印刷有限会社

# 安武校区の文化財マップ

## ★肥前嶋境石



肥前国(現在の佐賀県・長崎県)と筑後国境界を示すための石碑です。肥前と筑後の境界は、筑後川の中心線によって決めていたのですが、以前は今よりも筑後川が南を流れていたため、このあたり一帯は、肥前領となっていました。その後、河川工事によって石碑は取り払われ、石碑の場所も筑後川の南岸から現在の位置へと移動しました。



## ★古町の荒神社



古町は、海津城の城下町でした。荒神社は古町の鎮守社です。ここでは素戔嗚命・蛇毒神・大己貴神を祀っており、ひきつけや百日咳を治すと信じられています。これらの病気が治ったら、生きた鶏をそのまま奉納していたため、以前は、鶏小屋があったそうですが、次第に鶏の絵を描いた絵馬を奉納するようになったそうです。



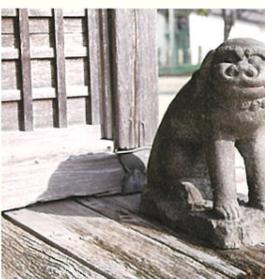
▲文明年間古碑



▲天神石祠

また、荒神社の境内には、弘法大師堂や観音堂のお堂の他に、文明年間古碑や薬師石祠、天神石祠があります。文明年間は、1469年から1486年の17年間で、石の表面に、地蔵菩薩像が確認できます。江戸時代の国学者である矢野一貞によると、この荒神社の天神石祠は海津城主だった安武氏を祀るものではないかということです。

## ★住吉天満宮



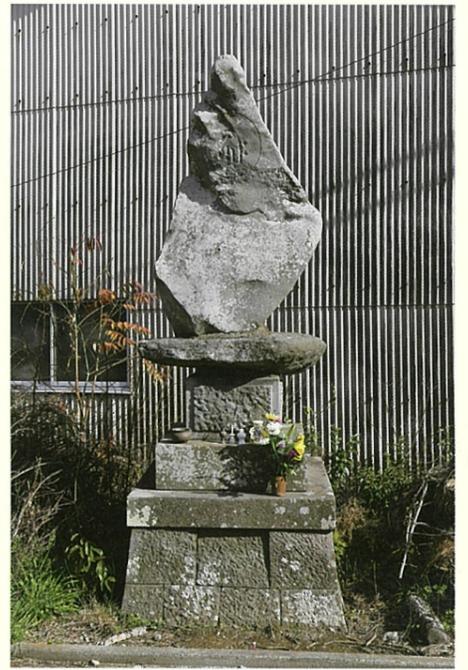
天満宮の境内には、風浪神社があります。風浪神は海洋を主宰する神であ

＜お願い＞  
文化財の中には、私有地内にあるものがあります。  
見学するときには無断で敷地内に立ち入らないようにしましょう。

凡例

○	主な遺跡の範囲	開	神社
●	古墳	閉	寺院
○	失われた古墳	♀	バス停
□	城跡	—	校区の範囲
⌒	石碑など		

★ 念仏塚の石碑

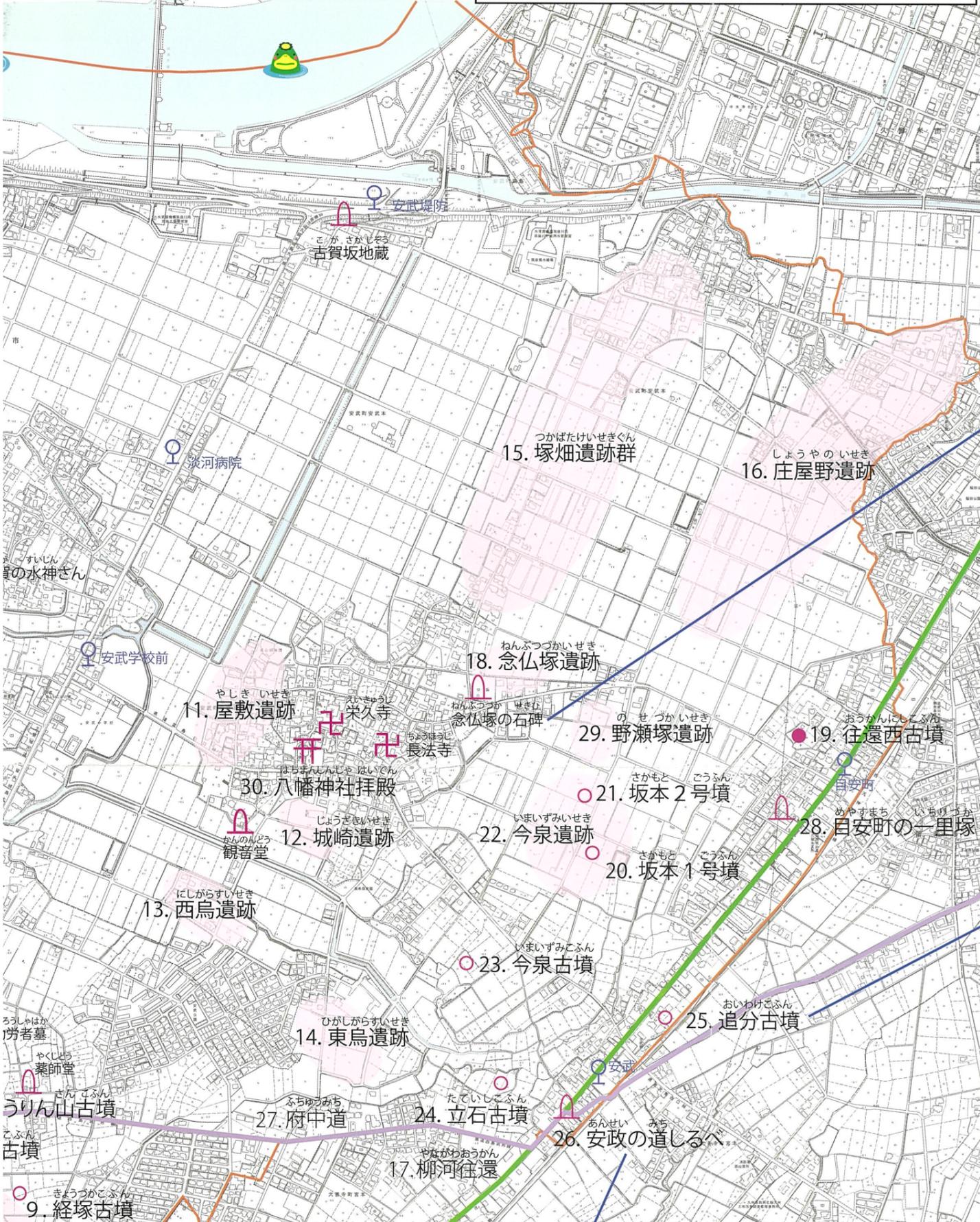


長法寺の尼僧(女性の僧)が念仏を唱えて亡くなった塚であるという伝承があります。念仏塚の名前の由来となりました。

★ 追分古墳の碑



追分古墳は、昭和14年(1939)に地元の人々によって発掘され、中から人骨や玉、金属製品などが発見されました。  
この碑は、昭和55年(1980)に古墳の石室の石を利用して建てられました。



★ 安政の道しるべ



江戸時代、筑後国主田中吉政によって柳河と久留米を結ぶ柳河往還が作られました。この往還の途中である安武町追分で、薩摩坊津街道に合流する府中道を分岐させました。その分岐点に建てられたのが、安政の道しるべです。この道しるべは、安政4年(1857)に、吉山東兵衛英義によって建てられました。  
石碑には、二面にわたって文字が書かれています。

左	右
くるめ	高良山
	ふちう道
	ひたこくら

現在の道しるべは、復元されたものです。

かわいい  
こまいぬ うし  
猫や牛がいるよ!  
さが探してみてください!

じんじや やおろずじんじや こがらすじんじや はらだ  
神社・八百万神社・小烏神社・原田  
は少童神を祀っています。少童神は  
海上鎮護の神です。